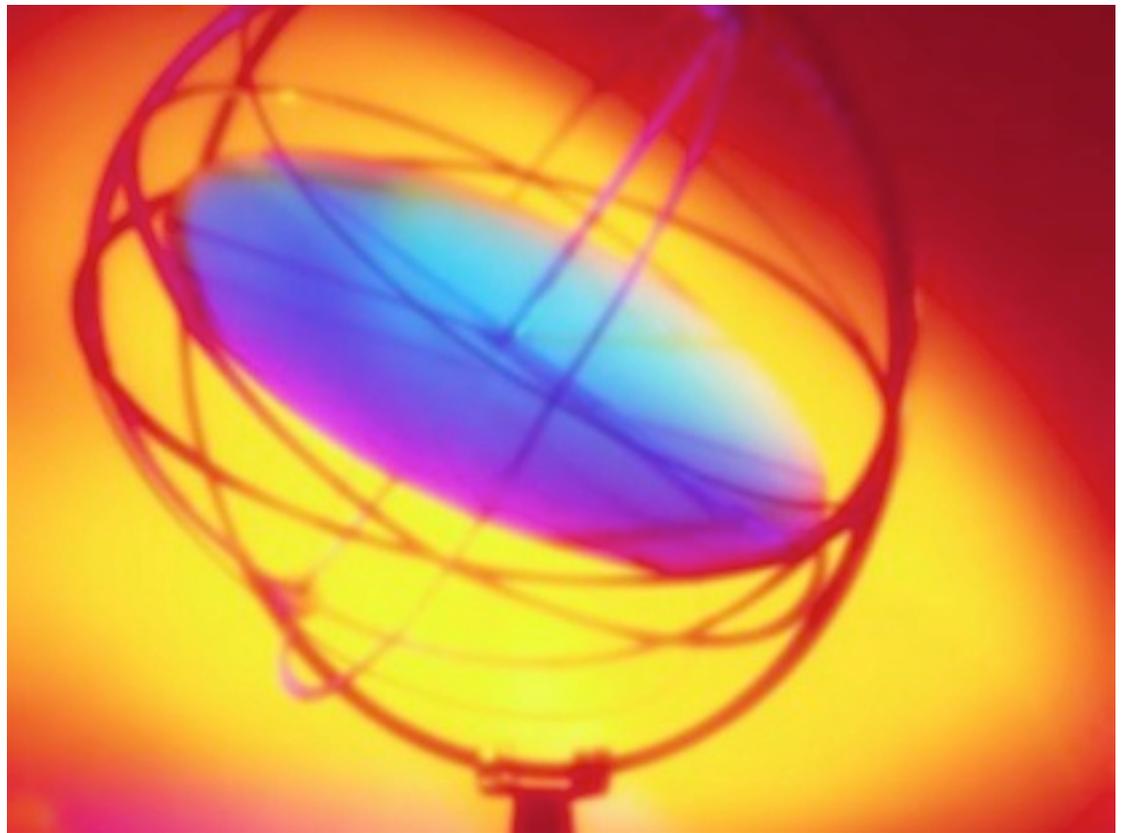


現在でもフェアへの出展者を募集しており、ブースの飾り付けを手伝ってくれる方を探しています。読書クラブは、夏の間に数回のミーティングを予定しています。書籍リストが欲しい方は、図書館でお申し出ください。



三丁目の夕日新聞

わが国流通業界の50年の軌跡を辿る時、先ずスーパーマーケットの歴史を振り返りたい。

スーパーマーケットの誕生は、1930年（昭和5年）アメリカのマイケルカレンが、キング・カレンの名前で開店したのが始まりとされている。このスーパーマーケットに代表されるセルフ・サービス販売方式は、既に大正の初めアメリカで存在していた、西部ゴールドラッシュの最中のことである。

大正5年（1916年）米国の小売業のチェーンは全米に進展し、各小売店はサービスの競争におおわらわで、配達

きはする、等経費はかさむ一方であった。こうした時、食料品屋のクラレンス・サンダースという人が、一つのアイデアを考えついた。それは「客に働いてもらおう、その代わりその分安く売ろう」という発想である。

テネシー州メンフィズで店をオープンした彼は、商品をうず高く積み、客が自分で自由に商品を選び、金を払って持ち帰るようにす

値をつけた。彼のモットーは「商品はうず高く、値は低く」で、世をあげサービスの競争時代に、その反対のことを敢然と実行した勇気ある商人で、これがセルフ・サービスの始まりであり、彼こそ近代セルフ・サービスの元祖といえる。

彼の店は入口に回転柵扉をとりつけ、入れるがそこから出られないように工夫した。当時は木製であったが、その後金属製に変わっただけで、ごく最近までスーパーのどの店にも設置されてきた。レイアウトも一方通行

で、客は店内のどこへもというわけにいかず、入口から出口まで一本道で、出口でレジスターで清



その代わり、うんと安く